

一般社団法人 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会

2024 年度事業報告書

1. 全体総括・事業報告(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

2024年度は協会資金のみでの運営となり、会計資金が厳しくなる年度であるため、理事会等の活動は原則オンラインで実施した。しかし、令和6年1月1日に能登半島地震が発生したことにより、被災地の聴覚障害者へのメンタルケア支援・ソーシャルワーカーの派遣の必要性が想定された。そのため、外部団体からの助成事業への申請について検討を始めた。申請に先立ち、能登半島地震の具体的な支援方針・方法については、被災地の関係団体と慎重に協議を重ねた。その結果、当協会会員のソーシャルワーカーを派遣し、被災聴覚障害者への支援および現地で支援を行っている者に対するスーパーバイズ支援を実施すべく、日本財団の「令和6年能登半島地震に関わる支援活動」に申請し、2024年5月から支援実施の運びとなった。活動の詳細は以下の報告に委ねる。

また、特記事項として長らく更新されていなかった当協会ホームページをリニューアルした。今後は更新頻度を高めて、随時必要な情報をアップデートできるようにしていきたい。

2. 事業報告

(1) 会員管理について

現在の会員数は 109 名 (2025 年 3 月 31 日付) である。2024 年度の会員入会状況については新規入会者がいても退会者や会費未納者がいるため、会員数としては、ほぼ横ばいになっている。一方、会費未納については年度内にメールニュースにてお知らせする等の督促を行い、2024 年度会費未納者は 13 名 (2025 年 3 月 31 日付) であった。

(2) 総務報告について

① 理事会開催報告

2024 年度理事会を下記の通り実施した。

- ・ 第1回 2024年5月12日 19時～21時 (オンライン)
- ・ 第2回 2024年6月29日 19時～21時 (オンライン)
- ・ 第3回 2024年9月23日 15時～16時 (オンライン)
- ・ 第4回 2024年11月9日 19時～21時 (オンライン)
- ・ 第5回 2025年1月13日 13時～16時 (オンライン)
- ・ 第6回 2025年2月16日 20時35分～21時30分 (オンライン)
- ・ 第7回 2025年3月22日 13時～17時 (対面)

② 関係団体との連携について

【後援名義】

- ・ 第 28 回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会
- ・ 2024 年度（公社）精神保健福祉士協会全国大会
- ・ 2024 年度（公社）日本社会福祉士会全国大会

【協力団体】

- ・ 聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会 2024（稲理事参加）
- ・ （一財）全日本ろうあ連盟主催専門団体会議 静岡県静岡市開催（欠席）
- ・ 日本精神保健福祉士会 60 周年設立記念祝賀会（欠席、祝電送付）

【令和 6 年能登半島地震に関する支援活動関係】

- ・ 石川県精神保健福祉士協会
- ・ 石川県相談支援専門員協会
- ・ 石川県聴覚障害者災害対策本部
- ・ 一般財団法人全日ろうあ連盟 聴覚障害者災害救援中央本部

③ 講師・委員活動

- ・ 日本財団助成事業令和 6 年能登半島地震における聴覚障害者のメンタルケア支援事業推進委員会委員（理事・監事 全員）
- ・ 第 26 回東京都のろう教育を考えるフォーラム「聾学校におけるスクールソーシャルワークの必要性と意義について」実践報告（館脇・二神）
- ・ 全通研機関紙「聴覚障害者のソーシャルワーク支援」寄稿（稲）
- ・ MIMI 機関紙「ろう者とガン」（対談会コーディネーターとして）（館脇）

(3) 広報報告について

① ホームページの更新

当協会ホームページの更新について、データベースを最新バージョンにアップデートし、協会シンボルマークやパンフレットでも多用されているオレンジ色を基調にしたデザインにした。災害支援の項目を追加し、能登震災支援の進捗状況の記事を随時アップロードした。今後は古いデータを整理し、新たな情報・記事を定期的に更新できるようにしたい。

② 会員メールニュースの発行

会員メールニュースは、第 57 号（2024 年 4 月 11 日付）～第 62 号（2025 年 3 月 25 日付）の全 6 回を発行し、会員メーリングリストにて送付した。

(4) 研修報告について

2024 年度は会員向け学習会を「茶話会」と題し、オンラインで実施。毎回、会員の中から講師を選出しミニ講義を話していただいたあと、会員同士の顔の見える交流を目的として意見交換を行った。

- 第1回 「能登支援について現状報告」
2024年8月17日 参加人数：14名
- 第2回 「DWATってなんだろう」
2024年10月27日 参加人数：14名
- 第3回 「情報提供施設における相談業務について」
2024年12月22日 参加人数：11名
- 第4回 「ろう学校あるある SSWについて」
2025年2月16日 参加人数：13名

以下、参加者のアンケート結果から感想等を抜粋。

<良かったこと>

- ・ 会員の方から報告をしていただけたこと。
- ・ 不定期ではあったが4回開催できたこと。
- ・ 参加者からは概ね参加して良かったと言っていたこと。

<課題>

- ・ 日程のお知らせがギリギリになったこともあり参加者が固定化された。
- ・ 開催目的が会員同士の交流なのか、学習会なのか曖昧なものになってしまったこと。
- ・ 手探りの中始めた「ミニ学習会」でしたが、会員の皆様からのご協力のもと開催することができた。まだまだ改善点はあるが、皆様からのご意見等をお寄せいただき更なる充実を図っていきたい。

(5) 外部助成による事業報告（日本財団助成）について

「令和6年能登半島地震における聴覚障害者及び支援者への相談支援」

石川県聴覚障害者災害対策本部の協力を得て、令和6年能登半島地震にて被災した聴覚障害者及び支援に関わる者のうち、精神的支援や生活支援が必要な人に対してメンタルケアを中心に、生活相談やカウンセリングを行った。また第二期には、石川県精神保健福祉士会・石川県相談支援専門員協会のご協力をいただきアウトリーチ活動も行った。

【支援実施期間】

- ・ 第一期 2024年5月15日～7月31日
- ・ 第二期 2024年10月15日～2025年5月31日
(当初予定では2025年3月30日事業終了予定だったが事業遂行に遅滞が生じ、2ヶ月の事業延長を行った。なお、活動自体は4月30日で締め、5月31日までの間に事務手続きと日本財団への報告資料の作成を行った。)

【活動内容の概要】

- ・ 第一期 活動人数：19名 派遣回数：9回

活動場所：石川県白山市内避難所、あさがおハウス等

- ・ 第二期 2024年10月15日～2025年5月31日

活動人数：48名 派遣回数：26回（オンライン含む）

活動場所：

- ・ やなぎだハウス訪問：10回（奥能登地域へのアウトリーチ活動含む）
- ・ 心理士とのカウンセリング（オンライン）：8回
- ・ 石川県精神保健福祉士会とのアウトリーチ活動：3回
- ・ 「令和6年能登半島地震における聴覚障害者へのメンタルケア支援事業推進委員会」：2回（対面1回、オンライン1回）等

【状況】

第一期支援活動では、現地のコーディネーターが現地のろう者を熟知していたことから事業実施にあたっては現地コーディネーターの判断による要支援者へのメンタルケアを中心に実施することができた。また、本会と聴覚障害者災害救援中央本部の関係が東日本震災支援時に構築されていたため、被災地の現地本部と連携しながら事業を速やかに進めることができた。9月には被災地の豪雨災害を受けて活動にやや遅れがみられたものの、第二期支援を開始。第二期では、第一期で見えてきた課題をもとに、継続的にメンタルケアが必要な被災者等への面談を行い、同時に支援者支援にも力を入れ、被災地以外の場所を利用した面談も必要に応じて実施した。後半はまだ支援と繋がっていない聴覚障害者の掘り起こしのため地域の行政機関との連携によるアウトリーチ訪問を行った。

一方、訪問活動では降雪時期には思うように動くことができず、第二期活動期間を1ヶ月延長したものの、年度末と年度初めの繁忙期が重なり、訪問の日程調整に苦慮しながら4月末に事業を完了させた。今後の課題としては派遣ワーカーの支援力を高めるスキルアップの研修をどう進めていくか、また2025年度は助成がない中、財源の確保の方法についても考えていかななくてはならない。災害はいつどこで起こるか分からないことを考えると、第三期支援実施に向けた取り組みを検討している。

以上